東京音楽大学リポジトリ
Tokyo College of Music Repository

2016年度の図書館展示とイベント

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-06-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 東京音楽大学付属図書館 メールアドレス: 所属:
URL	https://tokyo-ondai.repo.nii.ac.jp/records/1276

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

2016 年度の図書館展示とイベント

1. はじめに

昨年度「イベント検討グループ」を立ち上げ、稲葉事務長とスタッフ4人、計5人を中心に図書館展示といべんとについて企画検討しています。今年度も引き続き同じ体制で運営を行っています。原則として月1回ミーティングを行い、問題点や方向性を確認しながら進めています。

2. 展示

ケース展示と貸出展示を実施。

単発で企画したものの他に、連続性を持ったテーマをシリーズ化したものを加えました。これらのシリーズ展示は、来年度以降も継続する予定です。

2-1. 音大生の本棚

2016 年 4 月 8 日 ㈮ ～ 2016 年 5 月 27 日 ㈮

（貸出展示）[1]

4月に入学した新入生を主な対象として、音楽に関する入門書や基本的な文献を中心に展示。

・音楽史
・楽譜と版
・楽典、音楽用語、スコアリーディング
・論文・レポートの書き方
・就職、進路
・演奏家のための健康と心構え

[1] 1階ロビーの特設書架でテーマに沿った資料を集め、ディスプレイ風に配架するもの。ポスター等の案内やわかりやすい見出しも設置している。

楽譜資料やAV等の音楽資料は閉架、音楽書の開架は3階といったように,学生の目にふれやすい所に資料がほとんどありません。そのため、新入生が図書館に来て最初に目に付く1階の棚、手に取りやすい所に資料を集めました。選書に当たっては、講座ごとに担当の先生が提示してくださる推薦図書と重ならないように配慮しました。

今後も内容の充実を図りながら、新年度恒例の展示とする予定です。

2-2. ファクシミリ版シリーズ 1「J.S. バッハの自筆譜」

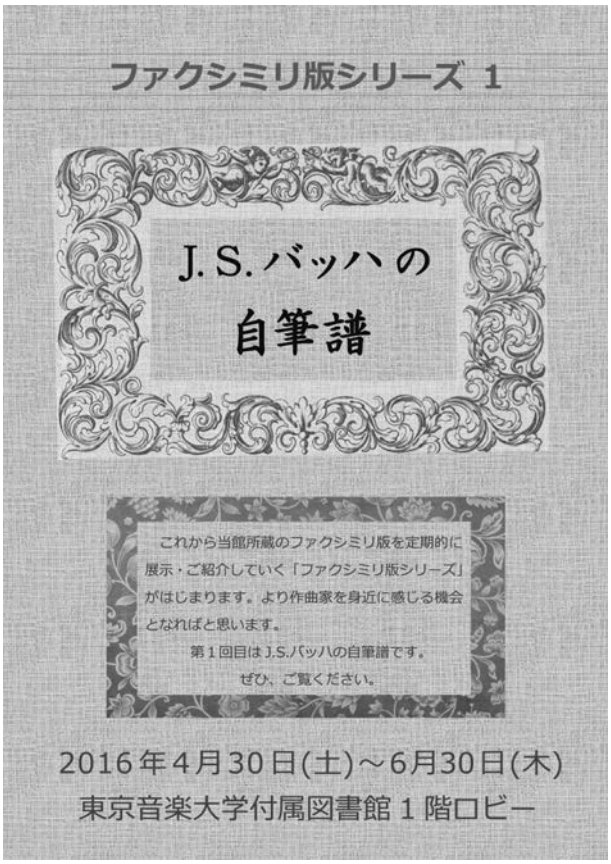
2016 年 5 月 12 日 ㈭ ～ 2016 年

（ケース展示）[2]

普段目にすることが少ない作曲家自筆の楽譜のファクシミリ版を展示するシリーズ。

初回は J.S. バッハ（Johann Sebastian Bach 1685-1720）を取り上げました。今年度のライブラリー・セミナー『バッハの神学文庫連続講座―マタイ受難曲―』[3] の第 1 回目と時期が重なったため、セミナーに関係する作品を中心に展示資料を選びました。

また、シリーズの初回ということもあったので、自筆譜や原典版楽譜について書かれている書籍なども合わせて貸出展示しました。



[2] ガラスのショーケース内に、説明書きとともに貴重な資料などを展示するもの。併せて関連の書籍等も近くの書架に配架している。

[3] ライブラリー・セミナーについて本誌 65 ページから 67 ページ、及び 81 ページを参照してください。

2-3. 髙柳二葉コレクション公開記念展示

2016 年 7 月 4 日 ㈪ ～ 2016 年 9 月 23 日 ㈮

（ケース展示）

2016 年 4 月から公開・運用が始まった「髙柳二葉[4] コレクション」[5] の資料の中から、髙柳先生が作曲家本人からいただいた自筆資料や、先生が出演されたプログラムを中心に展示。

特に、関屋敏子[6]、古関裕而[7]、廣石徹[8] の自筆譜は、髙柳コレクションの中でも、資料的価値が高いものです。こういった資料を展示することが図書館では少なかったので、貴重な機会になったと思います。

また、髙柳資料には、今まで図書館で所蔵していなかった声楽曲の楽譜が多数含まれているため、利用者からの貸出請求も多いです。今後も展示を含めた広報活動を進めていきたいと思っています。

---

[4] 髙柳二葉（たかやなぎふたば）は 1915（大正 4 年）東京生まれ、2013（平成 25 年）死去。東洋音楽学校（現東京音楽大学）声楽科を卒業と同時に講師として採用され 1996 年（平成 8 年）に退職するまで長きにわたり後進の指導に当たる。藤原歌劇団（現公益財団法人日本オペラ振興会）でも活躍。

[5] コレクションについては、鳥海高広「髙柳二葉コレクションについて」『ライブラリーレポート』第３号（東京音楽大学付属図書館 , 2016 年）収載を参照してください。『ライブラリーレポート』第３号は東京音楽大学リポジトリで公開しています（https://tokyo-ondai.repo.nii.ac.jp/）。またコレクションのサイトも参照のこと（http://tokyo-ondai-lib.jp/collection/takayanagi/）。

[6] 関屋敏子（せきやとしこ）は 1904 年（明治 37 年）東京生まれのソプラノ歌手で作曲家。1941 年（昭和 16 年）自ら命を絶つ。国際的なソプラノ歌手として活躍し、オペラ『お夏狂乱』や歌曲の作曲も手がけた。

[7] 古関裕而（こせきゆうじ）は 1909 年（明治 42 年）福島市生まれの作曲家。本名は古關勇治。1989 年（平成元年）死去。代表曲に『長崎の鐘』や『オリンピックマーチ』などがある。

[8] 廣石徹（ひろいしてつ）は 1900 年（明治 33 年）山口県生まれの作曲家。2000 年死去。自由音楽学園専任講師。

高柳二葉
コレクション
公開記念展示
東京音楽大学付属図書館１階
2016年7月4日（月）スタート

2-4. 感じるブラジル —地球の裏から響く音—

2016 年 5 月 30 日 ㈪ ～ 2016 年 9 月 30 日 ㈮

（貸出展示）

2016 年は、ブラジルのリオデジャネイロでオリンピックが開催されたこともあり、普段図書館ではまとまって取り上げることが少なかったブラジル音楽の資料を展示。

ブラジルの作曲家ヴィラ＝ロボス（Heitor Villa-Lobos 1887-1959）の作品を中心に、ボサ・ノヴァなどブラジル音楽について書かれた書籍、ブラジルの民族楽器の演奏法を解説した DVD などを幅広く貸出展示をしました。

今後も世界的な規模のイベントに関連して、あまりなじみが少ない作曲家や特定の地域の音楽を展示することは続けたいと思います。ただ、その時にどういった視点で切り取るかという点は、もう少し絞り込んでも良かったかもしれない、と考えています。また、所蔵資料自体が少なかったので、こういった展示の機会に資料の充実を図ることも検討していきたいと思います。

2-5. ファクシミリ版シリーズ 2「ベートーヴェンの自筆譜」

2016 年 9 月 28 日 ㈬ ～ 2016 年 12 月 21 日 ㈬

（ケース展示）

ファクシミリ版シリーズの第 2 回目はベートーヴェン（Ludwig van Beethoven 1770-1827）を取り上げました。

年末に向けて国内で頻繁に演奏される『交響曲第 9 番』の自筆譜をはじめ、『ハイリゲンシュタットの遺書』のファクシミリ版も展示しました。また、ベートーヴェンに関連する資料も併せて近くに配架し、貸出できるようにしました。

2-6. シェイクスピア没後 400 年記念展示貸出

2016 年 10 月 7 日 ㈮ ～ 2017 年 12 月 21 日 ㈬

（貸出展示）

2016 年はイギリスの劇作家ウィリアム・シェイクスピア（William Shakespeare 1564-1616）の没後 400 年でした。

シェイクスピアの作品は、オペラをはじめ数々の音楽作品が作られています。それらの作品の中から代表的な作品を集めて展示しました。シェイクスピア作品の翻訳本や、オペラのリブレットなども展示しました。

作品ごとの展示をしたのですが、作品数が多く、関連する資料も大量になってしまいました。作品数の多い作家をテーマに取り上げる時は、視点を定め対象を絞りこむ等の工夫が必要で、今後の課題・反省点となりました。

2-7. 教員貸出展示

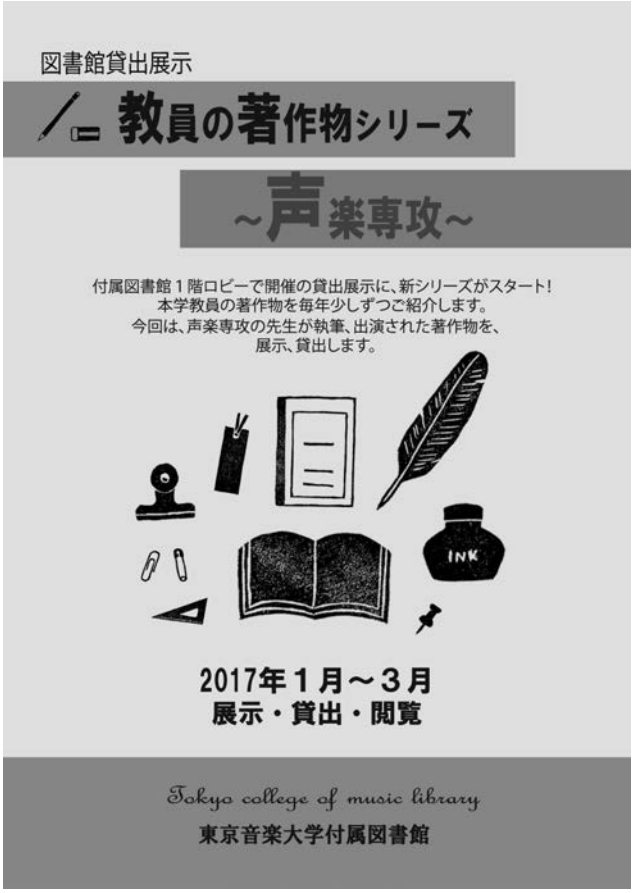
2017年1月11日㈬～2017年3月下旬予定

（貸出展示）

本学教員の資料を貸出展示するシリーズ。

本年度の対象は、声楽専攻教員です。ほとんどの資料が、教員自身の演奏を録音した視聴覚資料でした。一部雑誌に掲載された記事を展示・紹介しました。

この企画を通じて、図書館の所蔵の見直し、補充も行いました。絶版資料を、先生ご自身から寄贈していただくケースもありました。



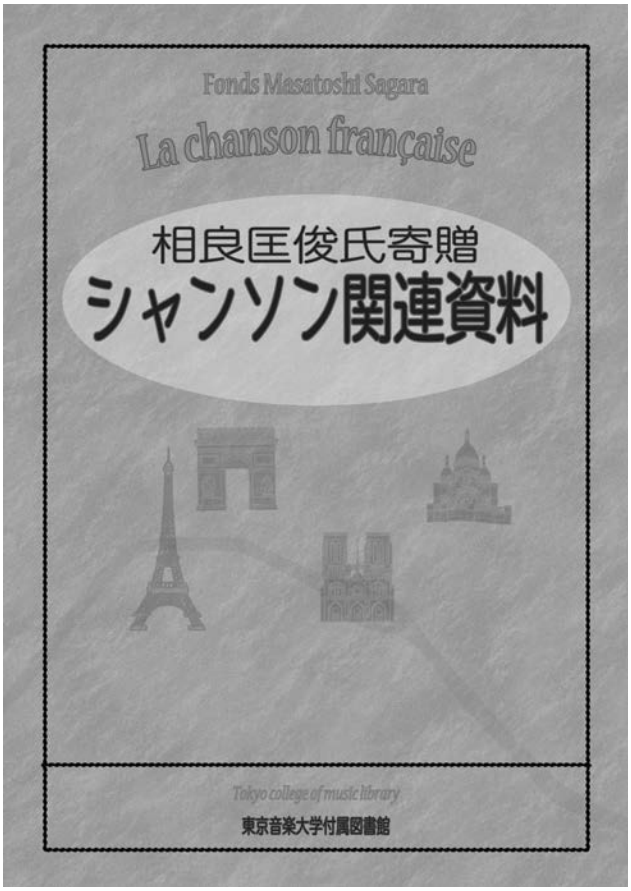
2-8. 相良匡俊氏寄贈シャンソン関連資料展示

2017 年 1 月 16 日 (月)～ 2017 年 5 月上旬予定

（ケース展示）

2016 年 10 月から運用開始した「相良匡俊 [9] 氏寄贈シャンソン関連資料」[10] の展示。

パンフレット [11] に掲載したシャンソンの楽譜を中心に展示をしました。19 世紀から 20 世紀にかけてのシャンソンの楽譜がまとまった形で所蔵されている機関が国内では少ないので、今後これらのコレクションが利用されることを願って展示しました。



---

[9] 相良匡俊 (さがらまさとし) は、1941 年 (昭和 16 年) 生まれ。2013 年 (平成 25 年) 死去。歴史学者。西洋史、特にフランス近・現代史を専門としていた。

[10] コレクションについては、本誌 31 ページから 42 ページを参照してください。

[11]『相良匡俊氏寄贈シャンソン関連資料 = Fonds Masatoshi Sagara, la chanson française』(東京音楽大学付属図書館 , 2016 年)。請求番号 :M3.94/Sa18。

3. イベント

ライブラリー･セミナーとして『バッハの神学文庫連続講座―マタイ受難曲―』を、レクチャーコンサートとして『ビオラ・デ・マーノとバロック リュートの調べ』を行いました[12]。

3-1. ライブラリー・セミナー

昨年度２回開催した『バッハの神学文庫―J.S. バッハ その響きの〝謎〟を探る―』のセミナー参加者から好評を博し、本年度は連続講座として J.S. バッハの『マタイ受難曲』を取り上げた講義をしていただくことになりました。

第１回目が 2016 年 5 月 28 日 ㈯、第２回目が 2016 年 9 月 17 日 ㈯、第３回目が 2017 年 1 月 28 日 ㈯。

今年度は３回の講義全てに参加していただくことを前提として募集しましたが、欠席される方が多かったです。それでも全回出席された方も少なからずいらっしゃいました。来年度も引き続き同じ内容でセミナーを開催する予定ですが、今年度の結果を鑑みて、講義開催日毎の募集としました。

また、来年度最初の講義では、関連のコンサートを開催する予定です[13]。

3-2. レクチャーコンサート

昨年度、2015 年 12 月 14 日 ㈪に開催の『リュートと歌で巡る優美なヨーロッパ 300 年の旅～ルネサンスからバロック時代へ～』でもおなじみの本学講師・水戸茂雄の演奏と当館館長坂崎則子の講義による『ビオラ・デ・マーノとバロック リュートの調べ』を図書館の1階ロビーで開催しました。

設営に時間を要しましたが、リュートという楽器の特性もあり、響きに関しては問題なく、来場者にも好評でした。

---

[12] 本誌 81 ページから 85 ページの「ライブラリー・セミナー報告」も参照してください。

[13] 日程や詳細については「バッハの神学文庫」のサイトを参照してください（http://tokyo-ondai-lib.jp/collection/bacharchive/）。

4. 終わりに

図書館の広報活動として始めた展示やイベントに関しては、今後も継続していく予定です。

展示に関しては、シリーズ化するものも含め、展示資料の選択や見せ方の工夫に改善の余地があると考えます。特に図書館の特殊コレクションに関しては、積極的に展示をすることが広報にもつながります。

イベントに関しても、図書館資料やコレクション資料を活かしながら、より開かれた講座やコンサートを開催していきたいと考えています。